

天文にゆうす

2011年1月号

しぶんぎ座
流星群が
極大

1月
4~5日

☑ 2012年の年始を飾る流星群

毎年、新年を祝うかのように華やかに登場するのが、しぶんぎ座流星群だ。しぶんぎ座とは聞き慣れない星座だが、18世紀の終わりごろフランスの天文学者ラテンドが、りゅう座とおおぐま座とうしかい座の境界あたりの星を結んで作った星座の事だ。1930年に星座の数が88個と決められたときに採用されず、幻の星座となったが、この流星群は、その名を残してしぶんぎ座流星群と呼ばれている。母天体は、小惑星2003EH1など諸説はあってはっきりしない。この流星群のダスト・トレイルは地球軌道と71度という急角度で交差しているために、ひきゆうが短時間で通り抜けてしまう。そのため活動期間が短く、ピークも数時間しかない。だから極大時刻が夜間になればすばらしい流星群を見せてくれるが、昼間にすれ込むと出現数の少ないさえない流星群になってしまうことも起こりうる。しかし、傾斜角が大きいという事は、地球大気への突入速度が遅いということでもある。そして、流星のスピードも遅めとなり、写真に写る可能性が高くなるというメリットがある。では今年の条件はというと、予報では極大時刻が4日午後ということなので、4日の末明と、4日の夜から5日末明まで観測しよう。気になる月齢は10とおおきめだが、午前2時までには沈んでしまうので、それ以降には観望には全く支障が無い。

JANUARY

☑ 2012年の年始を飾る流星群

1月
4~5日

しぶんぎ座
流星群が
極大



■北斗七星をかすめるしぶんぎ座流星群の流星。



■放射点は4日午前3時には、高度30度まで昇っている。月齢10だが、午前2時までは沈んでしまうので、以降は月明かりなしで観望できる。

天文にゆうす

2011年1月号

月と金星が
並ぶ

1月
26日
夕方

かんぼうはじ こうじょうけん りゆうせいぐん

観望初めにふさわしい好条件な流星群

3月27日に東方最大離角を迎える金星が、夕方の西の空で高度を上げて、日没30分後の高度が30°に迫るようになってきた。明るさも-4.1等に達し、いかにも宵の明星らしい華やかな輝きになってきた。まわりには明るい星がないので、まるで美しさを独占しているようにも見える。こんな神々しい金星の近くを、1月25日から27日にかけて新月直後の細い月が通り過ぎていく。

月と金星が最も接近するのは1月26日だが、その間隔は6.7度と、ちょっとよそよそしい。実視界7度の7倍双眼鏡でのぞくと、視野の両端に月と金星がへばりついている感じ。少し視野が狭い双眼鏡では、はみ出してしまう。できれば、実視界8度以上の低倍率か広視野の双眼鏡で見よう。ひかえめなオレンジ色の夕焼け空をバックに、月齢3の地球照を伴った細い月とキラキラ光る金星とのコントラストを楽しむ事ができる。

また、1月30日には、半月近くまで大きくなった月齢7の月が旬を過ぎた木星に並ぶ。月と木星の間隔は4.5度ほどで、こちらは7倍双眼鏡の視野に余裕で収まる。

の両端に月と金星がへばりついている感じ。少し視野が狭い双眼鏡では、はみ出してしまう。できれば、実視界8度以上の低倍率か広視野の双眼鏡で見よう。ひかえめなオレンジ色の夕焼け空をバックに、月齢3の地球照を伴っ

